

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム おひさま

ユニット名 _____

自己評価実施年月日 平成 20年 2月 20日

記録者氏名 山路 秀子

記録年月日 平成 20年 2月 29日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者や職員の入れ替わりにより再考しながら、その時々求められるサービスは何か、出来る事は何かを常に考えながら「理念」を作る努力をしている。	○	全員が認知症に対する知識と技術を身に付け「理念」の内容を具体的にアピール出来、実施できるホームになって行ける様に取り組んで行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内や朝・夕に職員の眼に触れる場所にも掲示また、グループホーム会では、第一議題として取り上げ常に心に留め実践できるよう努力している。	○	全員が認知症に対する知識と技術を身に付け「理念」の内容を具体的にアピール出来、実施できるホームになって行ける様に取り組んで行きたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には面会時や電話連絡の時、また、お便り等で「住み慣れた場所での生活がいかに穏やかに過ごせているか」という事を伝えるようにしている。地域に対してもグループホーム主催の勉強会や行事、機会ある毎に啓蒙する努力をしている。ホームはいつでも見学・訪問してもらっている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出先や途中出会った場合にも挨拶出来ている。ホームの庭や畑に出ていると気軽に声掛けて頂ける関係が出来ている。「洗濯物飛んでいる」「雨よ」と立ち寄って声掛けて頂ける関係作りが出来ており、今後も継続できるように「挨拶」を大切にしている。	○	今後も隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう取り組んで行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、班活動に参加している。防災部の衛生班では「炊き出し」「救護」等、地域の一員として活動できるよう参加している。今後も積極的に地域活動に参加、また、ホームの行事への参加も掲示板等活用させて頂き呼びかけて行きたい。畑の収穫物は散歩を利用して、入居者と共に配ったりしている	○	地域活動に参加し、地元の人々と交流することに取り組んで行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>地域の高齢者や子供達の立ち寄り場所として、休憩場所としての場の提供や誰もが立ち寄り愚痴や相談をしていただけるようなホームになるよう取り組んでいきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>今後も自己評価を外部評価で補い、改善すべき点は改善、「おひさま」がより良い施設となるように取り組んでいきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>今後も地域や市町村の協力を頂き、運営推進会議を継続する事で「おひさま」の質の向上に取り組んでいきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	<p>今後も市町村との連携により、「おひさま」のサービスの質の向上に取り組んでいきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めていけるよう取り組んでいきたい</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の説明を十分にし、利用者や家族の納得が頂けるよう配慮している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時には文書と口頭で説明し、常に、ご意見箱や外部連絡先の掲示もしている。日常的に声かけするようにし、必要に応じてサービス支援に繋げるよう努力している。	○ 今後も利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させるよう取組んで行きたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや金銭管理は毎月1回「お便り」や利用明細書と領収書をつけて報告している。職員の異動等は2ヶ月に1回の家族会で報告、利用者個人の健康状態については、家族の面会時や受診後、適時連絡するようにしている。	○ 今後も「おひさま」での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に掲示板やご意見箱・ノートを設置しているが活用はされていない。運営推進会議や家族会で頂いたご意見は、出来る事から取り組むようにしており、運営にも反映させたいと思っている。	○ ホーム内に掲示板やご意見箱・ノートを設置しており活用できるよう工夫していきたい。運営推進会議や家族会で頂いたご意見は、出来る事から取り組むようにしており、今後も運営に反映させたいと思っている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会や日常的に話し合うようにしており、必要な事は運営者にも報告・相談している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	受診支援など必要時には、職員の増員・配置するなど配慮している。利用者の介護量が増してきており勤務時間帯の変更など話し合いを進めている。	○ 利用者の状態変化に伴い、勤務時間帯の変更等話し合いを進めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	今後も異動等を極力抑えるように努めていきたい。
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	引き続き、職員がもう少しゆとりを持って働けるよう配慮し、研修が行えるようにしていきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	今後は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしていけるよう努力したい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	職員の補充や福利厚生を充実させていきたい。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	○	技術的な事については研修会への積極的な参加等により学んでもらい、それを他の職員へも還元していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込み時より、面会の機会を多くとり、その間に本人の困っている事等十分聴くように努力している。	○	今後とも、相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談内容をよく確認しホームが求めている場所かの確認、利用に至る場合は出来るだけ多くの機会を作り受けとめるよう努力している。	○	今後とも、相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしていきたい
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族に必要と思われるサービス等説明し、より良い支援が受けられるよう、共に考える対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の話し合い、「おひさま」を見学して頂き、その場で過して頂く中で、他入居者・職員の紹介、会話できる場面作りをし、徐々に雰囲気に馴染めるよう相談・取り組んでいる。	○	入居時には、本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫できる取り組みをしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節毎の行事を実施しているが、準備の段階から言葉かけし昔の様子を伺ったり、取り入れ実施するようにしている。個人差はあるが利用者の生活歴を大切に話題づくりや経験を話してもらえ場面作り、縫い物や工作・畑作りなど得意な事が出来る場面作りを大切にしている。	○	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築けるよう努力していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族で支援を必要とされている方には連絡を密にするなど、関係を築く努力をしている。ご家族は何でも報告して下さいといわれる方が多く、その都度連絡するように心がけている。	○	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築けるよう努力していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者からのさり気ない言葉や家族の想いを伝える代弁者として、より良い関係が築けるように取り組んでいる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者をご近所へ話しに出かけたり、電話で会いに来てもらったりされている。家族以外に昔からの友人や知人が尋ねて下さる利用者も居り、お茶を出すなど場の提供をし見守りしている。面会者については家族に確認し同意を得ている。	○	今後も、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援していきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の共通の話題への言葉かけや入居間もない方には紹介を兼ねて話題を提供、住まわっていた所が同じと言う事で、お互いが「名前」で呼び合うという場面も出来ていた。利用者が他者に言葉かけされている際には見守り、コミュニケーションが図れない時には、さり気なく仲介したりしている。	○	「おひさま」での生活の継続の為にも、利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めていきたい
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	「おひさま」の家族の一員と捉え、「必要時には、いつでもどうぞ」との気持ちを伝えていけるようにしていきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント用紙にセンター方式を採用し取組んでいるが十分でない。利用者の何気ない言葉や行動にも意味があると捉え、想いを実現できるよう、また家族にも伝えられるように取り組んでいる。短時間でも寄り添い、本音の行動や気持ちが聴けるよう努めている。	○	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めると共に、困難な場合は利用者の代弁者としての役割を持ち、本人本位に検討していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表や面会時に家族に尋ねるなど暮らしの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	趣味をされたり、ゴミ出しを日課とされる方など個人差があり、おひとりお一人が有する力を出し切れているとはいえない。季節がら活動性の低下はあるものの心身状態の把握が出来ていないのも一因かも知れない。かかりつけ医に相談し総合的に把握、持てる力を発揮できる暮らしの支援に努めたい。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	常日頃より利用者の把握に努め、関係者が一堂に介せなくても情報を共有し「利用者にとって」より良い介護計画となるように取り組んでいる。	○	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成出来るよう努力していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況に応じた介護計画の見直しをしているが十分ではない。	○	利用者の状況に応じてアセスメントを充実させ、その時々に応じた介護計画を作成し、希望に添った暮らしの支援が出来るよう取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや「夜間トイレが判らない」「内服を忘れる」「排泄の失敗があり不穏になる」など利用者の不安は、職員間で情報の共有をし改善が見られている。コミュニケーションがとれにくい利用者からでもトイレ誘導の際「清々しい気持ち」との発言が聴かれており喜びも共有、介護計画にも取り入れるようにしている。	○	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を介護計画の見直しに活かせるよう取り組んで行きたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者受診の際の付き添い支援、体調変化時にかかりつけ医に相談し必要時受診同行、地域の認知症の方の立ち寄り場所、地域子供達の遊び場所など必要とされる時に対応できる事は支援するように取り組んでいる。ご近所の高齢者の体調不良時にかかりつけ医まで移送支援、泣いている子供を自宅まで送り家族に安心頂いた事もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員さんには行事や会、日常的に協力して頂いている。ボランティアとして文化センターや美容室幼稚園等に協力頂いているが、消防・警察など挨拶程度なので、今後はもう少し関係を蜜に出来るよう努めたい。	○	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援していけるよう取り組んで行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて対応出来ている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要時には相談するなど取り組む姿勢でいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受け、出来るだけ地域の中での生活が継続できるように支援して行きたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>今以上の医療連携体制への検討をし、安心して暮らせる施設づくりが出来るよう検討している。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>今以上の医療連携体制への検討をし、安心して暮らせる施設づくりが出来るよう検討している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供書や関係者との連絡を取り合い、利用者が納得出来るよう支援している。必要時には出向き利用者の不安を取り除くよう取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に合わせた言葉かけや対応をしている。個人の排泄や知られたくない事等への言葉かけは「居室へ」やその方だけに解る言葉かけするように配慮すると共に、さり気ない介助をするように努力している。記録等の個人情報についても常日頃より取り扱いに注意している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入浴への声かけに準備できる方、言葉かけや見守りで一緒に出来る方、準備できなくても選択できる方など、利用者に合わせた場面作りをする努力している。飲み物やおやつについては希望の確認、出来ない方には見て選んでもらったりもしている。	○	利用者のペースや出来ることを継続して頂ける場面作りを多くし、表情豊かな生活を送れるよう取り組んでいきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室掃除や入浴等、先に如何したいか尋ねるようにし、利用者の気持ちを大切にしている。食事についても一律でなく「後で」と言われる利用者には見守りながら、温めなおし等で提供している。食後、居室で休まれる利用者も居る。が朝、掃除・洗濯干しなど業務優先になっている場面もある。	○	利用者本位の生活を大切にしながら「共に暮らす」を実践し、利用者の暮らしを業務で補足するような生活に取り組んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者はお化粧されたり、好みの服装されたりしておしゃれを楽しまれている。理・美容は職員送迎で美容室に行かれる方、ボランティアの美容師さんにカットして頂く方でも「好み」伝えられ、満足されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の中には、買い物にいたり食事の準備（盛り付け・配膳等）される方も居るが全員が何かに携わるといふ支援できていない。台所が狭く片付けも一緒にできるというスペースが取れず職員がしてしまう事が多くなっている。昼食は全職員が利用者の間に座り、それぞれの利用者に向けた言葉かけや見守りを行いながら一緒に食べている。	○	食事を全員の楽しみごととして、テーブル拭きや配膳等、ひとり一人の出来る部分で役割を持ちながら生活できるように取組んでいきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者によっては晩酌、タバコを楽しまれている。飲み物についても希望を聞き、伝えられない方には体調を考慮しながらその中で見て選んで頂いたり、好きなものを言葉かけしたりしている。おやつでは嫌いなものは他の物で対応出来ている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要な方には排泄チェック表を活用し、言葉かけ、誘導で失敗が減少している。日頃の関わりの中から利用者排泄パターンが出来てきて、失敗前に言葉かけできるよう取組み出来てきている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を大切にしながら、必要な方には言葉かけで入浴して頂いている。利用者は、「今なら入る」「さら湯は嫌、2番目が3番目」と言われながら入浴されている。冬季は浴室・脱衣室が寒く、体調面に十分配慮するよう取組んでる。	○	浴室・脱衣室の工夫をし安心して入浴出切るように改善していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の希望や状況に応じた言葉かけにより休息して頂いている。日中は体操や散歩、メリハリのある生活を心がけ不眠にならないよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者によっては趣味を楽しみながら過ごされたり職員と一緒にゴミ出しが日課になりつつある方もいる。買い物や散歩、畑で作る作物の収穫など楽しみにされている方は多い。個人差があり、全員の方が役割や楽しみごとが持てるよう取組む努力をしている。	○	利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしのある生活への支援が出来るように取組んで行きたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人差あるがご自分でお好きなお茶を注文したりして支払いされている方もいる。常時はホームでお預かりしているが、買い物や外出時にはご自分で支払われる方もいるが、お金を持つことで不穏ある方は「金庫」で管理しているという言葉かけするようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個人差はあるが希望あれば自宅や趣味の材料買いに出かけたり、タバコ・お酒やお菓子を近所の商店に買いに行かれたりされる方も居り、その時々言葉を大切に取組めるよう努力している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	1年に1回は1泊旅行を計画し、今年度は温泉旅行を楽しみました。また、誕生日には希望あればホテルで会席料理を食べたり、個人的にステーキハウスに出かけたりと出来るだけ添うように支援しているが、家族の協力が得られないと困難になって来ている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者は希望すればホームの電話で会話を楽しまれている。電話がかかってくる、家族以外の方からの手紙なども届くこともある。また、自室に携帯をもってその都度連絡されている。	○	利用者からも折に触れ、手紙等で近況報告できるような支援にも取り組んでいきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人、昔の馴染みの方が遠方より家族で来られたりと、気軽に尋ねて下さる関係が出来ている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会があれば参加し、報告することで再認識するようにし、拘束の無いケアに取り組んでいる。	○	常に拘束の無いケアを実践できるように取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵は無く、玄関にも鍵はかけていない。	○	今後も継続したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホーム内には階段や段差が多くあるが、職員は連携を取り、1・2階に居る利用者の見守りをし、安全に過ごせるよう配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ひとり一人に応じた対応をしており、趣味をするためにカッターやハサミ、ナイフを持っている方、裁縫箱を所持している方もいる。ただ、注意が必要と思われる方については家族と相談しホームで保管したり持ち帰って頂くよう危険を防ぐ取り組みをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のためのマニュアルや年2回の防災訓練等実施しながら事故を防ぐ努力はしているが、介護度が増すに従って、ホーム内には段差も多く常時、見守りが必要になっている。職員は連携を取り事故防止に取り組んでいる。	○	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んで行きたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応については職員ひとり一人が重要な事として捕らえており、常に話し合っている。職員の目に付く所にマニュアルや連絡網を掲示したり、体調変化時には協力病院に連絡し相談するよう心がけている。	○	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていくように努力して行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練や地域の訓練に参加した際には利用者も一緒に避難場所の確認等の話をしている。地域の方は「何かあれば大声を出しなさい」と言ってくださっている。	○	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう関係を蜜にしていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	職員が考える利用者により起こり得るリスクが理解されていないように感じられる家族もおり、不安感を与えないような、しかし、現実により起こり得る事は説明していくよう心がけるよう取り組んでいる。	○	「おひさま」がバリアフリーでない事も含め、一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っていけるよう取り組んでいきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は連携を取り、利用者の変化を察知した時は、速めの相談・受診等で対応し、安心して過ごせるよう努力している。家族にもその都度報告し安心して頂けるよう取り組んでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ひとり一人について概ね把握している。服薬の確認と症状の変化については、必要時は個別にチェックし主治医に報告している。	○	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めるよう努力していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝の野菜ジュースや牛乳、水分摂取や体操・運動等するようにし、利用者の排便のリズムを掴むよう努力している。最近は、利用者の多くが午前中に排便されるようになって来ており習慣付けるよう取り組んでいきたい。	○	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に声かけし、利用者に適した支援できている夜間は洗浄・保管できている。	○	継続して行けるよう取り組みたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の普段の食事量を把握しており、体調等により食事外の飲食支援を行っている。栄養量は1日あたり1500Kcal、水分量は1000～1500mlを心がけている。1回量が少ない方については機会ある毎に勧めるよう工夫している。	○	利用者の豊かな暮らしを支える為にも、食事の内容量や水分摂取を心がけ、いつまでも健康に過せるよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルの作成、研修会への参加、流行時期を早めに察知し、職員全体で予防や対応策の再確認している。常日頃より、ハイター使用し環境整備を行うと共に、外出後の「手洗い・嗽」の励行をしている職員は「持ち込まない・持ち出さない」事にも心がけている。	○	感染症に対する予防や対応を実践していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の調理器具は毎夜間時に消毒し、食器類については毎食後乾燥させている。食品についても消費期限を厳守し、冷蔵庫内の食品は賞味期限を確認し処分している。食中毒予防の為のマニュアルを台所にも掲示し、いつでも確認出来るようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には段差もあるが、利用者は自由に出入りし庭や畑の様子を見たり水遣りをしたりして過されており、見守りする事で対応している。家族や近隣の方も気軽に声かけして下さったり、訪問してくれている。	○	玄関は座って靴が履けるようにし、少しでも安全に出入りが出来るよう取り組んでいきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の遮光はカーテンやブラインドで調節している夏場は建物全体にすだれを取り付け季節感を味わうと共に涼しい自然の風で暑さをしのぐ事もしましたただ、引き戸や居室の重たいドアの音は大きく、日中・夜間等に「音」を立てない努力をしている。掲示板や廊下には季節ごとの飾りをするようにし、利用者とのコミュニケーションの一助にもなっている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓だけでなく畳の部屋にはコタツを置いている。廊下にも椅子を置くなど工夫している。利用者はコタツが好きな方、自席を決めている方等、思い思いの場所で過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族が必要と思う物を持参してお部屋作りをされており、趣味をされる方、自作の作品を飾っている方等、おひとりお一人が過しやすい空間を作り出されている。ただ、認知症の進行に伴って、居室内の物の多さに疲労感（片付けても片付けても終らないとの言葉）を感じ始めている利用者もおり家族と相談している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	早朝や掃除時、また適時に空気の入替えし換気に努めている。ホーム内には温度計を設置し体感と目で確認するよう心がけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は看護師寮を改修したものであり、階段や段差も多く高齢者向きとはいえないが、職員の言葉かけや見守りで安全に過ぎて頂けるよう努力している。建物内部はおひとりお一人の生活リハビリと捉え日中・夜間とも見守りを頻回にしている。	○	生活リハビリと捉えていても、利用者の居住期間が長くなると生活困難は免れず、今後は利用条件の再考か建物の改修かを考える時期に来ているように思われる。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各自の居室には個別のプレートを掛け、浴室等にはのれんを掛けその場の雰囲気を出せるように工夫している。ホームに慣れている利用者は視力低下があっても必要な場所の把握されているが、入居時より視野障害のある方は混乱が見られることもあり付き添う事で失敗を防げるよう工夫する取り組みをしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居間からテラスに出て畑や外の景色を見れるようになっており、作物の出来具合を確認されたり、飛んでいる野鳥を観察したりして過されている。庭や畑も広く草引きや水遣り手入れ等、思い思いの生活が出来るよう取り組んでいる。暖かい日にはテラスや庭にテーブルと椅子を出しお茶を飲んだりレクリエーションをするように心がけている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム「おひさま」は、静かな住宅地の中にあり、自然と住民が調和した環境の中にあります。幼稚園や小学校、病院や商店街など生活の場が周辺にあり、散歩や外出時には何処からか声を掛けて頂けるような馴染みの関係性が出来ています。日当たりの良い広い庭や畑があり、地域の方に教えて頂きながら作物を育て、一緒に収穫したり、おすそ分けしたりの関係を大切にしています。地域の高齢者や休日の子供達が気軽に立ち寄って頂ける場になっており、今後は、「困った時は・・・」と想って頂けるような施設作りを目指しています。